

経営比較分析表（平成30年度決算）

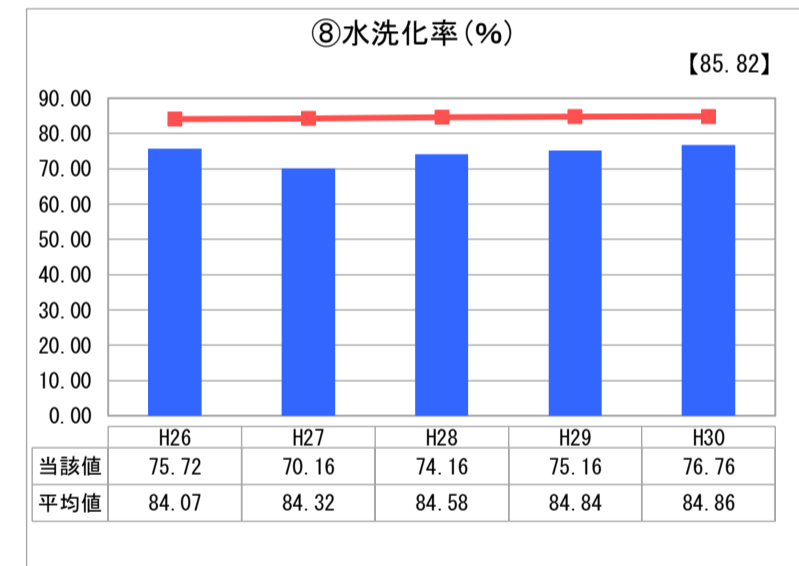
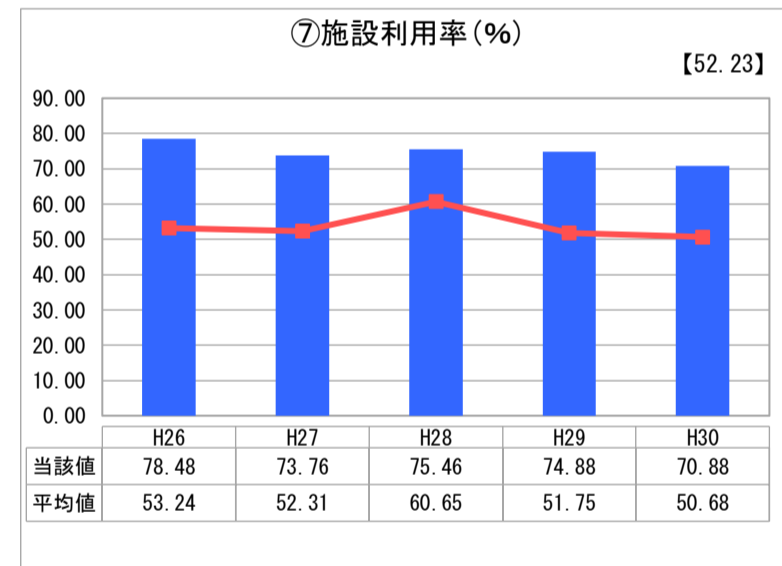
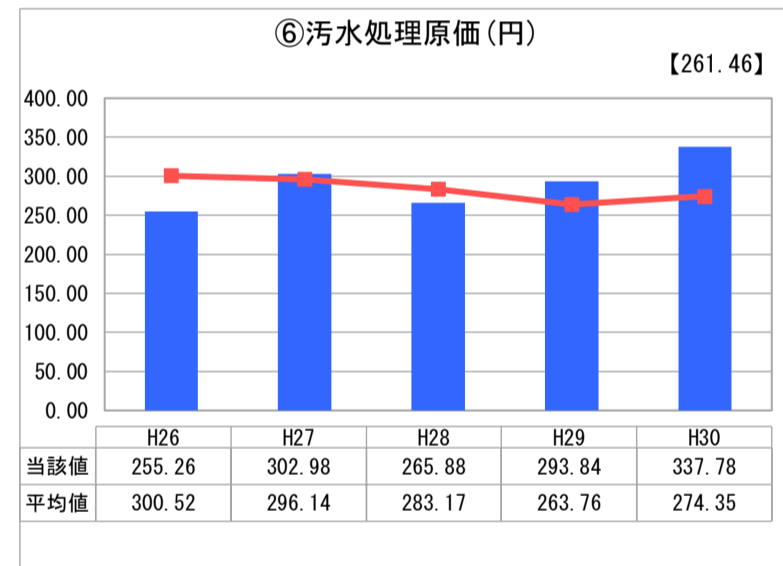
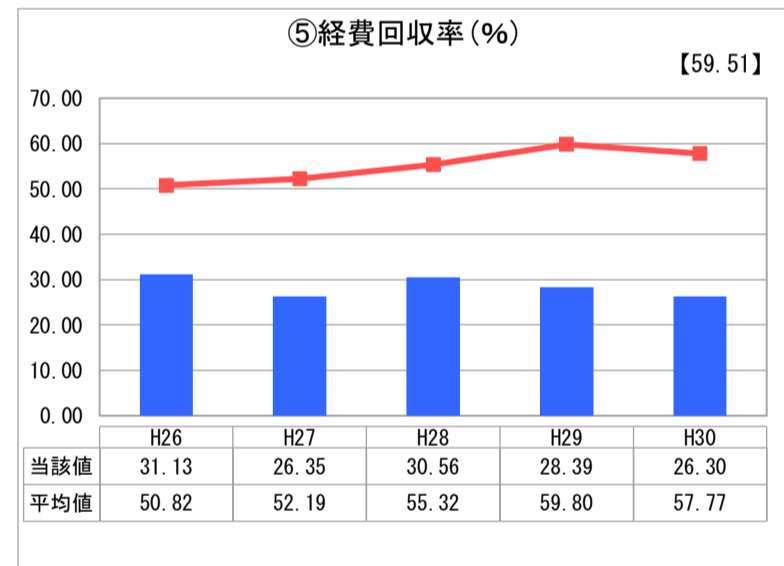
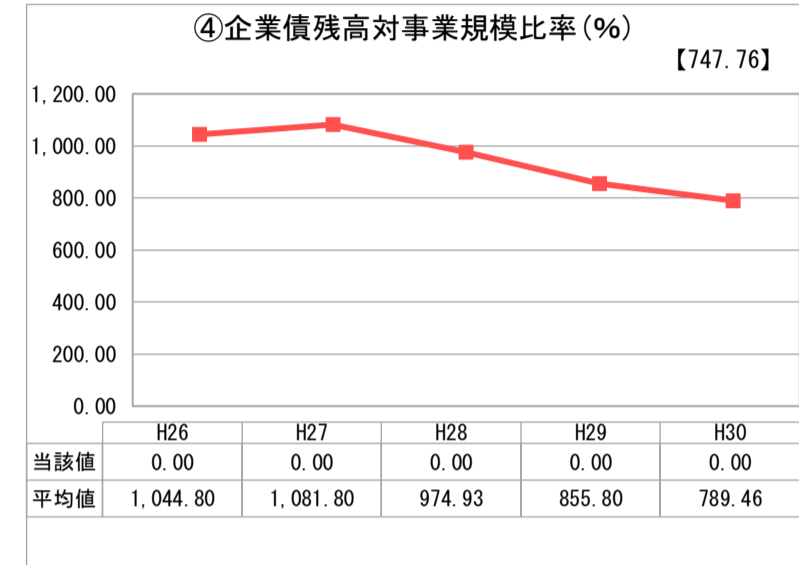
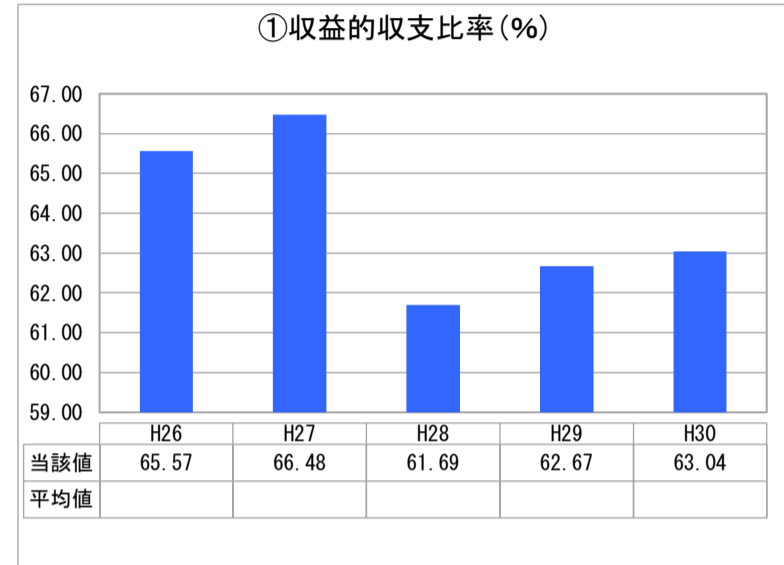
静岡県 静岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.64	100.00	2,750

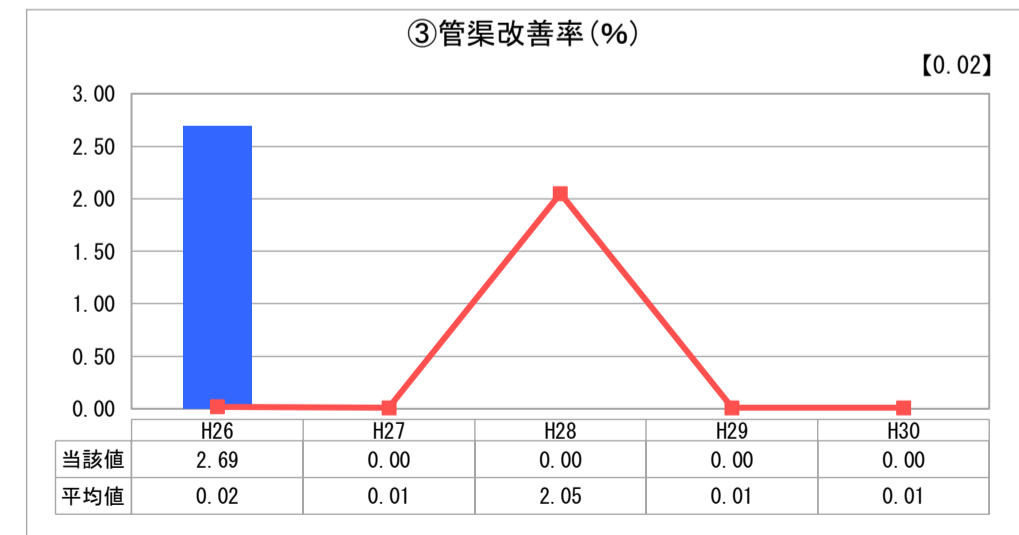
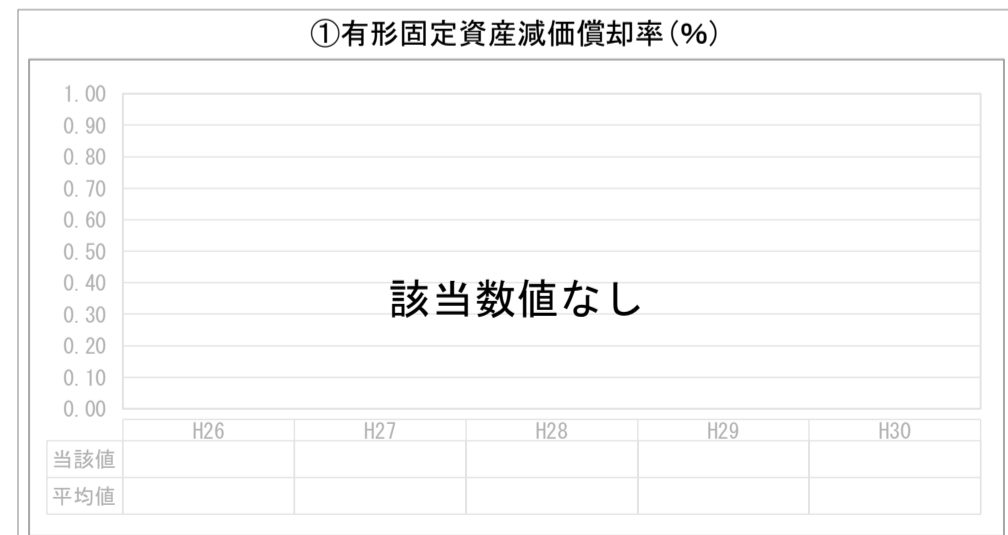
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
702,395	1,411.83	497.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,449	1.74	2,556.90

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率について、施設整備に伴う起債の償還金が支出の半分を占めており、使用料収入で賄うのは難しく全て一般会計からの繰入金で補っているため、比率は100%を下回っている。今後も最適整備構想を策定し、施設整備を進めていくことから同程度の比率が続く見込みである。
施設利用率は他都市と比べても数値は高く、施設の規模は適正であるものの、経費回収率、汚水処理原価は他都市と比べて低い値となっていることから、供用開始してあまり年数がたっておらず、まだ接続率が低い地区での接続率増加に努め、使用料収入の確保に努める。

2. 老朽化の状況について

平成26年度まで管渠改善率が類似団体平均値と比較して高いのは、新規新設事業である富厚里地区の管渠工事によるものである。新規の敷設の予定はなく、工事完了により現在は維持管理の為に修繕を主に行っているが、11地区ある処理区域の中で、供用開始から年数がたつ地区については、管渠の更新が必要となってきており、施設と同様に今後の更新計画の基盤となる最適整備構想を策定し、効率的な更新をすすめていく。

全体総括

市内に11箇所ある処理施設を安定的に運営していくために、投資においては最適整備構想を策定し、計画的に管路や機器の更新・修繕を進めていく。また収入においては、市として人口減少の傾向があるなか、処理区域が位置する中山間地は今後その傾向がより加速していき、使用料の収入は減っていくものと見込まれる。現在、接続率の低い区域において、接続率を増やすことで収入の増を図っていくと共に、整備計画の進捗を踏まえながら使用料の改定を検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。